



# Banshow-boh

## Acoustic Guitar Jam Vol.7

### 2013/4/13 (sat.) 16:30 open



ギター・インストゥルメンタル演奏を愛する皆様、アコ・ジー・ジャムです。  
純然たる参加型「遊び」企画です。初級者から上級者までどなたでもご参加できます。  
ラグタイム・ブルース系、O氏風叩き系、ハワイアンスラックキー系、アレンジ遊び系、  
クラシックもどき系、ギターを弾かずに聴衆に徹する方(プレッシャー係)も歓迎です。  
ギター・インストゥルメンタル演奏愛好者の皆様、お待ちしております！

入場料 ¥1500 (1ドリンク & おつまみ付)  
☆パフォーマーは要エントリー予約

プログラム予定は、以下の通り  
第Ⅰ部:演奏タイム(1~2曲)  
第Ⅱ部:余興ミニコンテスト(希望者のみ)  
※課題曲は毎回変わります。お問合せ下さい。  
第Ⅲ部:『聞きギター』コーナー **New!**  
第Ⅳ部:渾身の1曲演奏(希望者)  
第Ⅴ部:打ち上げ宴会(別の飲食店)

エリクサー・ナノウェブ  
ブロンズ・ライトゲージ



提供:クロサワ楽器・町田店

#### 特別企画『聞きギター』とは？

有りそうで無かった！  
以下の4本のギター、音の違いを味わってみましょう。

万象房フォークギター教室の講師であらせられる、斉藤ヒロシ師に、4本のギターで同じ曲を寸分違わず弾いて頂きます。  
お客様には目をつぶって聞いて頂き、どのギターを使ったのか？当てて頂く... ただ、それだけです。

お客様の回答を採点して、順位を付ける...  
と言うような無料なマネは致しません！  
なのでズル無し！真剣に音の違いを味わって下さいませ。

ギターのコンディションを、出来るだけ公平に保つ為に、  
弦は同じ物を、同じ時期に張り替えます。  
今回は、クロサワ楽器・町田店様のご協力により  
ハイグレードな弦を使用することが出来ます！

	Martin OM-28VRCTM 1999	Martin OM-42 2006	Martin 000-18 CTM 2001	Martin D-28 1997
TOP	アディロンダック・スプルース(グレード:6)	シトカ・スプルース	アディロンダック・スプルース(グレード:8)	シトカ・スプルース
BACK	インディアン・ローズウッド	インディアン・ローズウッド	ホンジュラス・マホガニー	インディアンローズウッド
SIDES	インディアン・ローズウッド	インディアン・ローズウッド	ホンジュラス・マホガニー	インディアンローズウッド
NECK	ホンジュラス・マホガニー	Select Hardwood	ホンジュラス・マホガニー	Select Hardwood
FGBD	エボニー(黒檀)	エボニー(黒檀)	エボニー(黒檀)	エボニー(黒檀)
BRIDGE	エボニー(黒檀)	エボニー(黒檀)	エボニー(黒檀)	エボニー(黒檀)
TOP BRAC	フォワードシフト・スキャロップド・プレーシング(1/4")	フォワードシフト・スキャロップド・プレーシング(1/4")	フォワードシフト・スキャロップド・プレーシング(1/4")	Xプレーシング(5/16")
NECK SHA	モディファイドV	ローシェイプ	モディファイドV	Low-Profile
オーナーコメント	<p>向ヶ丘遊園にあったFMG(マーティン専門店)がオープン5周年記念にカスタムオーダーした1本。 TOPのハイグレードなアディロンダック・スプルースがカスタムの目玉！ トップバインディングのヘリンボーンパターンとヘッドのマーティンロゴは、それぞれオールタイムタイプになっている。</p> <p>1999年5月13日購入(FMG入荷当日) 途中、ペグをウェヴァリー・ペグ(クルーソントタイプ、アイボロイド製)に交換。 ナットとサドルもオイル・ボーンから本象牙に交換。 バックプレーシング8ヶ所剥がれリペア、フレット全交換などを経て、今年5月でまる14年目を迎える。</p> <p>OMの特徴をわかりやすく言えば ・粒立ちの良い音(1音1音の分離が良い) ・低音の重量感と高音の軽快で芯のある音の総合バランスが良い ・ロングスケールなため、いろんな奏法で使える オールマイティさがある</p>	<p>「ラグタイム・ピッカー憧れのデラックスOM。 クラシックなスノー・フレイク・フィンガーボード・インレイと、OMの特徴であるスモール・ティアドロップ・ピックガードのコンビネーションを持った、OM-42。シトカ・スプルース・トップ、インディアン・ローズウッド・サイド&amp;バック、スノー・フレイクス・エボニー指板&amp;駒、スキャロップ・プレーシング。伸び、深みある低音域に上品なきらびやかさがミックスされたサウンドは、特に繊細なフィンガー・ピッキング・プレイに於てその素晴らしさを存分に発揮するでしょう。」</p> <p>↑と言う事らしいですが 材や構造に関して、ほとんど無知な私は見た目にほれ込み、 時間と体力を活用し、中古屋めぐりをした結果、 一番好きな音が出るこの楽器を、OM-28VRをドナドナして買った。 中古品。 丸一日をかけ5店舗、10本以上の試奏に 付き合ってくれた吉田さん(右のD-28オーナー)には大感謝！ 吉田さんが付きあってくれたおかげで 購入候補のギターと自分のギターを弾いてもらい、 客観的に音の比較が出来た事が本当に有り難かった！</p> <p>ピックアップを付けた以外はノーマルのまま。 L.R.BAGGS(エルアールバッグス)/Anthem</p>	<p>000(トリプル・オウ)は別名をオーデトリウム(公会堂などの意味)サイズと呼ばれています。000-18はドレッドノートに比べ、小さいボディながら華やかで深みのある澄みきったトーンを持つと、また、単音の伸び、和音のまとまりの良さはフィンガー・ピッキングにおいてその本領をいかんなく発揮するといわれています。特に、レコーディングに愛用しているミュージシャンが多いとも言われています。 この000-18 CTMは、2001年製。 向ヶ丘遊園にあったFMGというギターショップが開店7周年記念のためにカスタムオーダーしたギターです。 当時は、スタイル18にGolden Eraがなかったため、もしも18のシリーズにGolden Eraがあったらというコンセプトで注文してみたいです。 ネックが幅広で指板とブリッジが黒檀というオールドスタイルの18ですが、トップは最上級グレードのアディロンダック・スプルースで、フォワードシフトの1/4インチのプレーシングという細工がしてあります。 ある日お店に行ったら、社長が店の奥から000-18とOM-18を出してきて「どう？」と言ったので、000-18のほうを買いました。結局一度も店に並ばなかったギターです。ちなみにOM-18は、斉藤さんの生徒さんが買いました。 最初の印象は、普通の000-18や00-18にはちょっと泥臭い感じがしますが、このギターは、凄く上品な音がある。000にしては低音に力がある、音の立ち上がりがいい、といった感じでした。 もちろん、裏板と側板がマホガニーなので、同じ形の28や45と比べると厚厚感のない軽〜い音だと思います。 初めは、ナットとサドルとエンドピンが象牙でしたが、牛骨と黒檀に変更してあります。 フレットは2回打ち替えました。</p>	<p>D28の「D」は、ドレッドノートの頭文字。当時、一番大きいボディだったので、世界最大の戦艦ドレッドノート号に例えられました。ちなみに兄弟分のD18はサイドバックがマホガニーです。 D28はアコギのベンチマークと言うかデファクトスタンダードと言うか、まあ、そんな位置づけです。なのでジャンルを問わず多くのミュージシャンが愛用しています。私の好きなポール・マッカートニーやマイケル・ヘッジス。城川さんの大好きなポップ・デュランなんかもライブやレコーディングに使っています。 D28の特長は、大きなボディを生かした、パワフルで豊かな生鳴りでしょか。マーティン特有のサスティナブルなサウンドも弾いていて気持ちがいいです。ただ、私の個人的感想では、音の豊かさは40番台の方が格上です。倍音もOMや000の方が良くコントロールされていると思います。まあ、そもそもD28は音量重視ですから。ここら辺が聞き分けのポイントでしょうか。 ただ、このギターは弦高下げている分、本来のパワフルさは抑えられていると思います。つまり、鳴らない？</p> <p>このギターは1997年に梅田のナカイ楽器で購入しました。 ちょこちょこ改造をしています。ピックアップはFISHMAN。ピックガードはべつ甲調へ交換。ナットはオイルに漬け込んだ牛骨に交換。ストラップピンも打ってます。リフレットは1回実施。</p> <p>最後に、吉田家ではSweet Ten Martin制度があり、結婚約10年目ごとにマーティンを購入します。(買って頂くのではなく、理由をつけて勝手に買うだけです) 20年目はOM42でした。今年、結婚25年なので5年後は18GEIに行くかかと勝手に妄想しています。</p>